

## 会議議事摘録

会議名	2024 年度第 1 回学校関係者評価委員会
開催日時	2024 年 6 月 29 日（土曜日）10：00～12：00
場 所	本校 7 階研修室
出席者 (敬称略)	<p>①委員：赤塚敦子（看護関連業界関係者）、石川幹夫（卒業生）、齊藤つばさ（くすり関連業界関係者）、篠塚功（医療事務関連業界関係者）、藤井寿和（福祉関連業界関係者）、森川雅彦（高等学校関係者）（計 6 名）</p> <p>②学校：川口拓也（校長）、前田律子（副校長）、榊原幸之（事務局長）、村山由美(医療秘書科学科長)、川畑亮子（医療事務 I T 科学科長・診療情報管理科学科長）、渋谷大樹（くすり・調剤事務科教員・教務委員長）、松田朗（介護福祉科学科長）、伊東由美（看護科学科長）、光本文仁（キャリアサポートセンター長）、杉本拓朗（学生委員長）（計 10 名）</p> <p>③委員会事務局：土屋瑠美子、土方雄太（計 2 名）</p> <p style="text-align: right;">（参加者合計 18 名）</p>
欠席者	黒田江里（保護者）、石澤雅子(医療秘書科副学科長)、結城久美子（くすり・調剤事務科学科長）
配付資料	<p>事前送付資料：</p> <p>資料 1：2024 年度学校関係者評価委員会名簿、 資料 2：2023 年度第 3 回学校関係者評価委員会議事録案、□資料 3：2023 年度第 3 回委員会以降の主な経過報告 別添 A：2024 年度校務分掌・組織図、別添 B：2024 年度学事日程・オープンキャンパス日程、別添 C：2024 年度クラス担任一覧、別添 D：2023 年度進路決定状況・求人件数、別添 E：2024 年度教員研修計画・実績、別添 F：2023 年度授業公開実施報告書、別添 G：2024 年度授業公開実施要領、別添 H：2024 年度前期授業アンケートの実施計画、別添 I：2024 年度教育課程編成委員会名簿、 資料 4：2023 年度の重点目標と達成するための計画・方法、資料 5：2022 年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み、 資料 6：2023 年度活動の自己評価報告書点検大項目</p> <p>当日配付・閲覧資料：学生生活ガイド（6 学科、看護科）、 2024 度講義要項（全学科）、各種検定・資格試験取得率、 Challenge 就職活動ノート、 2025 年度入学案内書、2025 年度募集要項（6 学科、看護科）</p>
議題等	<p>1. 校長挨拶</p> <p>コロナが明けて 1 年がたち、学生に元気が戻ってきた。昨年度は、人手不足を受けて就職は非常によく、検定や国家試験の成績も目標を達成することができたが、18 歳人口の急激な減少にどう対応していくかが今後の課題となっている。政府は、労働力不足を補うため留学生 40 万人計画を出しており、本校もそうした時代に合わせていく必要がある。また、一つの大きな流れとして通信制高校からの入学者が増加している。このような実態がある中で本校はどう対応していくべきか、様々な変化を前提にご意見をいただきたい。併せて、学校関係者評価委員会は、高等教育の質の保証を担保するという目的で始まって</p>

いる。本日は、学校運営の改善、ひいては質の保証という観点からご示唆をいただきたい、との挨拶が行われた。

2. 事務局より本年度委員（資料1参照）及び新任者（委員、本校）の紹介  
事務局より資料1に基づき今年度委員の紹介及び新任委員の挨拶が行われた。

3. 2023年度第3回委員会議事録について（資料2参照）

委員長より前回議事録案について諮ったところ、委員から特段の訂正はなく、個人情報に配慮して公開することが承認された。

4. 2023年度第3回委員会以降の主な経過について（資料3参照）

校長、事務局長、キャリアサポートセンター長、教務委員長、委員会事務局より、資料3（別添A～Iを含む）に基づき報告し、確認、了承された。委員からの質問・意見及びその回答は別紙のとおり。

5. 2023年度重点目標の取り組み年度末点検報告（資料4参照）

校長より資料に基づき補足説明をし、確認、了承された。委員からの質問・意見及びその回答は別紙のとおり。

6. 2022年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み年度末点検報告（資料5参照）

委員長より大項目ごとに質問、意見を求めた後、報告どおり確認、了承された。委員からの質問・意見及びその回答は別紙のとおり。

7. 2023年度活動の自己評価報告書（点検大項目）について（資料6参照）

委員長より大項目ごとに質問、意見を求めた後、報告どおり確認、了承された。委員からの質問・意見及びその回答は別紙のとおり。

8. 意見交換など

委員から意見・要望について意見交換を行った。詳細は別紙のとおり。

9. 次回日程、その他

事務局より、次回（2024年度第2回）の日程を確認願いたいとの報告があった。

以上

2024 年度第 1 回学校関係者評価委員会の主な討議内容

次第 4. 2023 年度第 3 回委員会以降の主な経過について

○川口校長、榑原事務局長、光本キャリアサポートセンター長、渋谷教務委員長、事務局土方より、資料 3（別添 A～I を含む）に基づき報告が行われた。（報告の詳細は省略）

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p>校務分掌にある合理的配慮検討委員会の説明をお願いしたい。</p> <p>18 歳人口が減少し、募集が厳しい状況だが、コロナ禍の影響が残っているのか、純粋に医療系の分野から離れていっているのか。併せて研修の報告の中にある広告代理店の分析について伺いたい。</p> <p>昨年は保育・幼教系も大幅に減少し、その前は建築系が落ちた。生徒、保護者、高校教員などに進路に関わる情報をきちんと提供していけば、大幅減にはならないのではないか。</p> <p>都教委の方針もあり、今は、大学の合格率を競わせている。大学に行きミスマッチで困っている人もいと聞くので、専門学校での再教育の機会を与えたらどうか。</p>	<p>法律が変わり、申請があった学生への配慮が義務化された。昨年度は検討会として、対象、ヒアリング、配慮計画、評価の流れ等のシステム作りを中心に、勉強会や啓蒙活動を進めてきた。本年度は委員会として 6 名のメンバーで活動している。</p> <p>コロナ禍においては医療機関に対するネガティブな報道が多く、募集にも影響している。</p> <p>この広告代理店は専門学校の分野を 27 に分類しているが、首都圏で最も人气が落ちたのが医療事務分野で、前年対比 12%減となった。大学もほぼ同じで保健分野、医療福祉分野は減っている。</p> <p>対策としては、留学生、増加している通信制高校の出身者の受け入れなどが考えられるが、通信制は毎日学校に来ることによるミスマッチのおそれもある。本年度から、くすり・調剤事務科で実験的に 1 人 1 台のタブレットを導入した。仮に週に 1 日を在宅にできれば、電車に乗れない人などを含めて学びの救済につながると思う。</p> <p>大学在学中の方や大学を中退の方がオープンキャンパスに来る割合が、コロナ前に比べると増えている。</p>

<p>未来の医療者を育てるという意味で、頑張らないといけないと思っている。</p> <p>医療事務系の賃金水準は非常に低いので、若い人たちは来てくれない。根本的に賃金を上げる方向でやっていかないといけない。</p>	<p>団塊の世代が後期高齢者に入ってきている中で、介護業界に全く人が足りていない。医療業界、福祉業界はもちろんのこと、建築業界、運輸業界、IT業界も奪い合いが起きている。専門学校業界では、国を支えるエッセンシャルワーカーを養成している立場から、政治を動かしていく活動も始めている。</p> <p>昨年、本校に来ている求人の賃金水準を学科ごとに出してみたが、高校の先生たちが話しているほど低くない。診療情報管理士や医師事務作業補助者を医療技術職の中に入れる病院も出ており、賃金体系を違うテーブルに乗せる動きがある。</p>
---	--

**次第5. 2023年度重点目標の取組年度末点検報告（資料4参照）**

- 川口校長より、資料4に基づき以下の報告があった。
  - ・学生確保面では、残念ながら目標には達しなかった。
  - ・社会人の3か月の短期訓練が徐々に定着してきている。これは拡大していきたい。
  - ・留学生は、日本語学校とのパイプづくりを1年間必死にやってきた。その結果は、17年ぶりに定員に達した介護福祉科の半数が留学生という形で現れている。
  - ・ハイブリッド教育は、1人1台の端末による教育がくすり・調剤事務科でスタートした。
- 委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p>最近SNSで直接情報を得られる。募集に関して、YouTubeの視聴を伸ばす戦略は考えているか。</p> <p>例えば、登録販売者の資格を取ったことでどんな活躍ができるのか、入社後にどのように実力が身についていくのかを知りたいと思う学生が増えている。SNSで卒業生に体験談を話してもらおうと再生回数は確実に増える。併せて、学生に寄り添ってくれる先生がいる学校を選ぶ傾向もあるので、卒業生と先生の両方の要素を出</p>	<p>SNSのマーケティングについては最重要課題の1つと認識しているが、現状は暗中模索の状態である。高校生向けのインスタ広告に加え、今後は留学生・社会人向けのフェイスブックも仕掛けていきたい。</p> <p>SNSの世界も速いスピードで変わっている。もっと発信していかないと、10代、20代の若者には届かないと実感している。</p>

<p>すとよいと思う。</p> <p>今、介護系のインフルエンサーが増えている。コロナ前は、介護はブラックだという発信をして再生回数を増やしていたが、今は楽しさや明るさ、元気を伝えるインルエンサーが人気になっている。そういう人たちと一緒に何かをやりながら、学校のことを伝えることを提案したい。</p>	
--	--

次第6. 2022年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み年度末点検報告（資料5参照）

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p><b>【教育理念・目的・育成人材像】</b> 介護福祉科が導入した介護実習支援システムとはどのようなものか。</p> <p>介護の現場でも2年後には申請、更新、情報公開などがネットを利用する形で行われるようになる。システムに強い人材は魅力的だと思う。SEから介護分野に入ってくる人も増えているので、介護技術や対人技能にプラスしてシステムを学ぶことは有用だと感じた。</p> <p><b>【学修成果】</b> 看護科で国試100%合格を達成したが、改めて所見を伺いたい。</p> <p>卒業生の社会的評価という項目があるが、病気や社会的不適応で1年以内に離職した者や休職した者の統計的データはあるか。</p>	<p>実習先の実習担当者・指導者と本校の学生、教員が情報を共有できる。これにより外国人留学生を中心に記録物の作成に係る負担、ストレスの軽減につながっている。</p> <p>学習アプリを導入した効果はあったと思う。今の学生は強制的にやらせるより、つかず離れずの指導がよい。100%になったことは下級生にもよい影響を与えているので、継続して頑張りたい。</p> <p>看護科ではホームカミングデーに来る卒業生やその友達などから知り得た情報を通して傾向を探るが、統計は取っていない。</p> <p>メール、電話、来校により仕事上の悩みや転職の相談を受け付けているが、全体としての傾向は把握していない。</p>

<p>教育の成果だけでなく、職場の問題や様々な要素が離職につながるの、相談できる窓口があることは大きいと思う。</p>	
---	--

次第7. 2023年度活動の自己評価報告書（点検大項目）について（資料6参照）

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p><b>【教育活動】</b></p> <p>(4)授業評価の実施の中に「自己点検・自己評価委員会において、学科単位で課題を見つけ」とあるが、委員会において学科単位で検討するという意味合いでよいか。</p> <p>くすり・調剤事務科で参加している日本チェーンドラッグストア協会セルフメディケーションアワードとは、どのような内容のものか。</p> <p>教員の組織体制の整備のところで、教員の持ちコマ数の均等化がうたわれている。教員の力量が違う中で、均等化する意図を教えてください。</p> <p>学生に対して、学生生活全般に関する要望などの調査をされているのか。</p> <p>退学者や休学後の復学者などが増えている。一律のアンケートでは把握しにくい個別の案件をどのように処理していこうと考えているか。</p>	<p>これまでは授業アンケートの回答率に差があったが、最近では8割近くまで上がってきた。今後は委員会において学科ごとにアンケート結果から課題を見つけ、授業により一層反映させていくという意味で記載した。</p> <p>毎年、個人で作文を投稿し、昨年度はドラッグストアショーにおいて表彰された。</p> <p>これまではコマ数のばらつきを校務分掌でならしてきたが、現在は学生が減少しているので、キャリアアップの意味も含めて複数の教科を持てるようにしてもらいたいと思っている。特に経験の浅い先生に関しては、幅広くいろいろなコマを持てるようにするという意図がある。</p> <p>以前は学生満足度調査を行っていたが、空調設備や学食のことなど、同じことが取り上げられる傾向があったので、満足度調査は廃止し、授業アンケートだけで進めている。</p> <p>入学後の前期のうちに、一人一人の学生に対して個別面談を行い、必要があれば学科で検討し、学科長会議に報告している。そのほか校長、副校長、カウンセラー、保健室への相談などを通して、情報を共有することを意識している。</p>

**【教育環境】**

高等学校への情報提供のところで、「A Iによる代替の可能性」とはどういうことか。

指定校を中心に訪問されているということだったが、実績のない学校からも来てもらうために、名前を知ってもらう必要もあるのではないか。入試方法、入試回数についても考え方を伺いたい。

**【社会貢献・地域貢献】**

ボランティアは自主的な活動であってほしいが、学生は遊びもアルバイトも含めて忙しいので、カリキュラムに組み込み、単位が取れる形にしないと難しいと思う。

広報チームが高校訪問をした際、かなりの頻度でA Iによって病院の事務職は要らなくなると言われた。そのような疑念を払拭するために、リーフレットを作り、高校の先生方や保護者の方に配付した。

入試区分はA O、指定校、一般入試とあるが、早く決めたいという流れを受けて、現状はA Oが増えている。指定校の数は、今は一部の通信制高校を含めて、先生が言われた数以上に出している。入試の回数は他校と比べても多めにしているため、増減は考えていない。

介護と看護以外は、ボランティア活動を一定の時間数こなした場合は卒業単位に含めてよいという規程がある。推進のためボランティアサークルを立ち上げたが、現状は0名で、困難な状況が続いている。

この地域にはいろいろな活動があり、子ども祭りや誰でも食堂の活動に参加するところから徐々に始めている。まずは教職員が参加し、中には協力してくれる学生も出始めている。留学生には日本文化体験にもつながるので、もう少し推進していきたい。

参加した学生によると、自ら積極的に仕事を見つけるのではなく、指示待ちの人も見受けられるという。ボランティアも種類によっては難しい面があることを実感した。

## 次第8. 意見交換など

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p data-bbox="177 400 780 577">我々は実際に勉強している学生の姿や授業の様子を見られないので、高校の教員向け説明会やオープンキャンパス、文化祭などを参観する機会を設けていただければと思う。</p> <p data-bbox="209 640 644 674">文書での案内があれば可能である。</p>	<p data-bbox="807 400 1445 577">今は日にちを設定してするのが難しいため、いつでも自由に来て、ありのままを見ていただきたいと思っているが、高校側で許可が下りるのか逆にお尋ねしたい。</p>

以上